

第7回宇美町総合計画審議会 会議録（要旨）

日時：2022（令和4）年10月26日

場所：宇美町役場2階 大会議室左

1. 開会あいさつ
2. 会長あいさつ
3. 議題
 - ①第7次総合計画 将来像・基本目標について
 - ②前期実践計画について
4. 閉 会

1. 開会あいさつ ～ 2. 会長あいさつ 割愛

3. 議題

①第7次総合計画 将来像・基本目標について

- 3ページ基本目標6について、「行政と町民がパートナーとなり」というところなので、「町民」が先に来たほうがいいのでは。（副会長）
- ご指摘のとおり。（会長）
- 3ページのところを見た時に、私の耳の中にずっと残っているのが、会長が仰っていた「横串を刺さないといけない」という言葉すごく頭の中に残っていて、どういう見せ方をすれば横串を刺すようなイメージが作れるのかと思って自分なりに考えてみた。

（持参資料の紹介）

笑顔・元気・安心・心地よい暮らし・活気ある産業と交流で、まちの魅力というものが循環しているということと、やはり単独では存在しなくていろいろなものが組み合わせあって、「ここが、いい。」まちになっていくのだろうと思った。これが循環して初めて“「このまちが、いい。」 私たちの誇り 宇美”になるのではないかという、頭の中のイメージを図式化したもの。3ページを初見で見た人は、1つずつ単独に見えるのではないかということと、矢印でつながりを表現しているけれども具体性に欠ける。

その説明が次のページに示したものであるのだろうが、「楽しそう、読んでみよう」というような呼び水にはなりにくい印象。（委員）

- 非常に貴重なご意見。やはり見せ方というのは重要。今お示しいただいたものは後でご覧いただきたい。

横串で刺すというときに、各目標ごとに、例えば「みんなで子どもの育ちを応援し生涯にわたって学びを楽しむ笑顔満ちすまち」、これを宇美町らしさ、「このまちが、いい。」という個性あふれたものにしていくという視点と、あともう1つは今委員にご意見いただいた「各目標の連動」を表現していくことによって、さらに宇美町の強みとして「このまちが」というふうな、二重の

意味を込めるといいのでは。

委員のおっしゃるとおりかなという感じである。ぜひ参考にして頂きたい。(会長)

- 将来像と基本目標については、委員の意見に基づく2つの修正、「基本目標6について行政と町民がというこの主語を順番を変える」ということと、この3ページの見せ方を委員がお示し下さった持参資料を参考にしつつ検討いただくという方向でよろしいか。(会長)

(異議なし)

②前期実践計画について

- 計画案全体として、かなり見やすくなっている印象。

「このまちが、いい。 私たちの誇り 宇美」が将来像で、その将来像を実現するために柱が基本目標として並んでいる。次にこの基本目標にとって「あるべき将来像」と現状とのギャップを見て、そのギャップを埋めるための方策が、計画案の右側の施策として挙がってくるのが本来のあるべき姿である。私も事前にこれを見させていただいてその部分が、まだ不十分だなというのを私は率直に思っている次第である。もう1つポイントは指標の問題である。たびたびこれまで申しあげてきたが、数値がありそうなものをここに挙げていたりしたがそれだと意味がない。

やはりあくまで最終的にはこの基本目標が達成されたかどうか。この基本目標を達成するためにはこの右側の施策で目指すべきことが実現できなければいけない。9ページを見ると、どうも子育て支援の充実を通じて実現すべきことが、安心して子どもを生み育てることができるまちだと思える町民が増えることだと想定されているようだが、まず、基本目標は「みんなで子どもの育ちを応援し」ということなので、そこがフィットしているのかどうかというのがよく分からないところ。

実感指標でまず最終的にいろいろな施策を取り組むが、それによって主観的な町民の思いに、気持ちにつながっているか、そういう実感につながっているかどうかを聞いていきたいと思います。ただそれだけではなく客観的な指標も組み合わせで見たいと思いますという考え方自体は非常に有効だと、個人的には思っている。

客観指標は、本来施策の方向性で言うとそれぞれに関連して客観的な指標、例えば分かりやすいもので言うと、子育てに関する相談体制の強化と関係機関との連携なので、子育てに関する相談体制の強化と言った時に具体的に何をどうするのか。どういった状態を目指すのかということが目標値として出てこなければいけない。そして、関係機関との連携というのだったら関係機関との連携会議や会議の開催数、そういうことが目標値としてきちんと挙がってこなければいけない。その目標値を実践、達成すればかなりの程度この柱が実現できて、この柱が実現できれば基本目標1の達成が一步近付く、こういう感じのイメージ。だから、そういう意味で考え方としてはよろしいのだけれども、この実感指標・客観指標がそういうものになっているかどうかということは、なお疑問である。

繰り返しになるが、基本目標から見てこれを達成するために何が必要なのか、あるべき姿と現実とのギャップを埋める時に何が柱になってくるのか、ということをもう1回考えていただいたうえで、そこでの原因分析を通じて施策の方向性ができてこなければいけない。

例えば、仮に安心して子どもを生み育てることができるまちだと思える町民を増やすことが大事

なのだとすると、これが今 51.8%というのはかなり低い。なぜこんなに低くなっているかを分析しなければいけない。多分いくつかのポイントがあって、そのポイントをつぶせばこのパーセンテージは上がるはず。安心して子どもを生み育てることができるまちだと町民が思っていないのはなぜなのかという原因分析をしたうえで、それが施策の方向性としてきちんと出てこなければいけないと思う。その作業をしていただく必要性があるかなと思う。(会長)

- 8 ページの課題の内容についてだが、「宇美町で安心して子どもを生み育てることができる取組が必要です」という部分、取組が不十分でしたということか。あくまでも建前として書いたのか。(委員)
- まず理想と現状とのギャップが問題で、その問題を解決するための取組が課題である。したがって、計画の書き方としては、課題となっているので求められる取組を挙げるのはいいと思う。(会長)
- こういった表現でいいということか。(委員)
- そういうこと。(会長)
- ついでに聞くと、9 ページの実感指標と客観指標、どのページもある程度埋めてあるが、この現状、課題、施策の方向性と深く絡んでいる指標、アンケートのようなものは準備できるのか。(委員)
- 客観指標は取れると思うし、取れるような客観指標を作っていたらいい。
先ほどの会議の開催件数などというのは、設定すればそれは回数を数えていけばいい話なのでできる。あと実感指標については、先ほどあったようにアンケートに加えていただくとかアンケートを改良していただくということでご対応いただける。(会長)
- 承知した。(委員)
- 8 ページの議論は「現状」から入っているが、「あるべき姿」があってそこと「現状」とのギャップが問題であって、この問題を解消するために取り組むべきことが「課題」である。その課題を具体的にどういった方向性でやっていくのかに関しては、なぜそういったことが生じるのかという原因分析が必要である。安心して子どもを生み育てることができていないとすれば、それはなぜなのか。その原因分析ができれば、おのずと施策の方向性は見えてくる。そのつながりがうまくできていない感じを受ける。(会長)
- 周囲のお母さん達と話す機会があり、よく話題に挙がってくるのは、近隣と比べてしまうということもあって、隣の町にはこういう公園が充実しているとか遊び場が充実しているとか…。また、バスや電車など、高校に進学する時に交通の便が明らかに不便になるといったことがよく挙がってきているが、そういうものがこの書きぶりでは見えてこない。
お母さん達からはストレートに、公園を充実させてほしい、公園があってもグラウンドゴルフなどをしていて使えない、ボール遊びができないなど禁止事項があったり、使おうと思っても使えなかったりするといったことを聞く。ここの課題とお母さん達がよく話しているものがここからは拾い出せないかと思う。(副会長)
- そう思う。結局、この宇美町で安心して子どもを生み育てることができる取組は何か、そこがこれまでのいろいろな計画づくりの中で、今おっしゃったようなお母さん方の声もあったはずである。そのあった声をきちんと踏まえきれておらず、まだまだ今やっていることの延長線上で書こうとしている感じがある。

今のお話からいくと、子どもの遊び場がない、公園がない、そこへのアクセスが難しいなどが原因で安心して子どもを育てることができていないとすれば、そこを埋めればいいのに、そこに目が行かず、これまでやってきたことなどの延長線上で書こうとしてしまうからこうなってしまうということだと思う。今のご意見をぜひ組み込んでいただきたい。(会長)

○ 具体的にもう少し言ってもいいか。例えば貴船公園がハピネスの中にある。あとハピネスの曲がり角にあるちびっこ広場とかサッカー場のようなどころがあるが、あそこで遊んでいいかどうか分からないという声も聞く。そこは使ってもいいとか遊んでもいいという、表示など目に見えて子ども達がここで遊んでいいというようなものが足りない。あるのにもかかわらず、遊んでいいか分からない。近くの公園でも親子が行ってもいいのか分からない。ここで自転車に乗ってもいいのか分からない。「ここで遊んでください」といったサービスが欲しいという声もある。(副会長)

○ 今のはこの場所で遊ばすと示したほうがいいのか、もう原則どこでも遊んでいいのだが遊んではいけない場所だけここでは遊んではだめと明示していただくほうがいいのか、そこは考えどころだが。(会長)

➔ 先ほどの公園に対する子育て世代からの課題、ご意見については、以前からも、34ページになるが公園の課題のほうで子どもから高齢者まで幅広い年齢層が利用する憩いの場としての公園を維持・管理することが必要ですという課題があるということで、35ページの取組の施策の方向性のところで2番目になるが、町内で公園が充足されていない地域があることを踏まえ、公園の適正化計画等の策定を進めていきますという形で加えさせていただいている。(事務局)

➔ 先ほどご意見をいただいたが、1つの縦割りではなく、循環して全体的に子育てなら子育てに對してもいろいろな施策の中で子育て世代を見ていかないといけないという視点が必要かと思っているので、ご意見を参考にさせていただいて、その観点というものが分かるような書き方に現状・課題のほうも見直しをしていかないといけないと思っている。(事務局)

○ 若干重複しても構わないと思う。むしろこの公園のほうだけで書いてしまうからこういう書きぶりになってしまうのだろう。

「憩いの場としての公園を維持・管理することが必要です」だと、維持・管理系になってしまう。だが、今のご意見は維持・管理ではなくむしろ利用の観点なので、ここで納めてしまうとやはりおかしいと思う。だから、施策の方向性のところで入れ込んでもいい。各課の縦割りで公園だから公園管理課のところに書かないといけないというその発想を変えたほうがいいという気がする。両方に記してもいいのではないか。(会長)

➔ ご指摘として受け止めたいと思う。総合計画のページがどんどん大きくなっていくのはどうかという先生のご意見もあるので、そこも一緒に考えていきたいと思う。(事務局)

○ 今の程度は広がってもいい。安心して子どもを育てることができる取組の方向性がきちんと明示されて、それが客観指標に上がってくると、それをチェックすることによってその柱が達成できたかどうかが見えてくるので、それはやはり書かなければいけない。

逆に今現在あまり関係ないこととか、この柱にとって重要でないことを書いているとすれば、そこを削除するべきである。必要なことは入れたほうがいいのかという気がする。(会長)

○ 読むほうの立場としても、これを全部読んで全てが分かるのではなく、子育てだったら1-1だけ読んで子育ての全容が分かるような書きぶりにしては。例えば、5番のところで子育て支援

施設と書いてあるので、公園や遊び場などのというほんの数行というか数文字入れるだけでも、皆さんがやろうとしていることは分かる。

ある程度重複してもいい。そして、そのページを見ただけでもその分野における町の取組が分かるような、ちょっとした工夫をされたらどうか。(委員)

- 全てをそのように書いてしまうと、異様に多くなる。子育てなど公園に関係があるところはすぐに目を通せるような書き方というのはないのだろうか。例えば、公園の利用についてはここを参考にしてくださいというような形で。

事業というのはたくさんあるので、そうしないと、全てを書いていくと非常に量が多くなる。読むほうも読みたくなる。(委員)

- 現状、小さい公園は球技あるいは自転車に乗るといったことは禁止がほとんど。

私の家のすぐ近くにも公園があるが、皆さん、子ども達の要望は小さい子どもだけでもキャッチボールをさせてもらえないだろうか。柔らかいボールで遊ぶつもりでも、公園は球技で遊ぶのはいっさい禁止だとなっているものだから、そういう声強い。

どこだったらそういう遊びができますということを皆さんにお知らせしていただくだけでも助かると思う。(委員)

- 今の委員のご意見に関してはごもっともで、全部書くのではなく場合によっては「○○参照」という形にさせていただくという、これは大事な視点である。また、一般的に行政的な書き方になっている。

9ページの子育て支援施設の環境維持、これを見ると計画的な維持・管理を行い適切な管理運営に努めますとある。公園や遊び場を使いたい人がいるのだから、地域の人たちの理解を得られるのであれば、もっと柔軟にいろいろルールを弾力化して使えるようにしてはどうか。そして、使えるところをきちんと明示していくとか。そういう視点はここに入っていない。

やはり子育て世代や子ども達の目線でこのところを書いていかないと、管理偏重になってしまう。これに関しては、一般的に気を付けていただきたい。

必要なことは書く。節約できることに関しては「○○参照」といった形でできる限り省略していただくことも、検討いただきたい。(会長)

- それでは、こちらの現状と課題の部分については以上のようなご指摘を踏まえた修正をお願いしたい。

それでは続いて指標の部分に関してだが、これは先ほども議論があったが何かご意見があったらぜひお願いしたい。(会長)

- 例えば実感指標や客観指標とある。審議会の委員は見たら分かるが一般の人が見てこれ分かるだろうか心配している。(委員)

- 実感指標の部分は比較的理解しやすいかと思う。(会長)

- ➔ 補足してもよろしいか。この総合計画はまだ完成していないが、この見方のページは総合計画が出来上がった時に、例えばここにはこういうことを書いているのですとか、この指標はこういう視点なのですという補足のページを設けたいと考えている。(事務局)

- 別途補足があるわけか。(委員)

- ➔ 実感指標、客観指標という言い方ももう少し伝わる易しい言い方についても検討していきたい。(事務局)

- 11 ページだが、客観指標の全国学力状況調査によった点数指標については、4 年前に全国を 100 としたものに対して宇美町は約 80 という結果になっている。今の指標設定だと、例えば、4 年かけてそれを 20 ポイントくらい改善して、101 ポイントになったらこの指標は達成しましたと言える。何と志の低い指標だろう。教育委員会は達成できそうな低い水準で「達成しました」と言いたいかどうかは分からないが、対全国平均だったら 101 でもオーバーしてしまうから達成したことになってしまう。そんな志の低い指標はしないようにと口を酸っぱくして言わせていただいたが、新宮が 120 なら宇美町は 110 くらい、本当は 120 くらい持って行って欲しい。5 年間の目標数値を是非「ぎりぎり達成可能なところ」で設定していただくよう強く求めたい。

もう 1 点。これは指標のところではないが例えば施策のところ、11 ページの 4 番目のところで小・中学校の長寿命化計画、これは計画が実際にあるのでいいが、特に最近取り組んできたトイレの改修である。トイレの改修をすると学力が上がるのではないかと思うくらい子ども達も喜ぶし、すごく学校に行きたがる子どもが増えてくるのではないか。学校に行きたくなくなったらどうしよう」といった子どもがいたら、やはり行けないのではないか。トイレのことだけはしっかり書いていただいて、トイレの改修が済んでいないところに対してはしっかり長寿命化計画に基づいて、トイレは特に力を入れますといった文言が欲しい。(委員)

- 今のトイレが本当に学力と因果関係があるかどうかは分からないが、あるとするととても面白い。「宇美町ならでは」というか。

その前におっしゃっていたこともとても的確で、何度も申しあげるのが学校教育の充実を通じてどういった状況を作り出したいのかという、まず理想があって理想と現実のギャップがあって、このギャップを埋めることが総合計画の目的。ただ、5 年間で一気にその最終目標まで到達するのは難しいから、この 5 年間で最終的なあるべき姿のどの地点まで達成しなければならないかという視点で目標を設定しなければ意味がない。

決して、これを達成できなかったら批判されるという話ではなく、むしろこのあるべき目標に向けてどのように事業のあり方、仕事の仕方を変えていくのか、そこを考え直してもらうことが重要であるから、現状ほぼ達成できるような目標を掲げるというのは少しおかし。

あるべき姿をまず前提として、この令和 8 年度までの間にどこまで持っていくかという、そこをちゃんともう少し真剣に考えていただければと思っている。(会長)

- 13 ページ、また指標の非常に細かいところだが、電子書籍の年間貸し出し件数の指標が 8 年で 1 万件とある。これも例えば子ども達にタブレット端末を渡しているが、そのタブレット端末で全ての生徒と児童が年間 2~3 回借りたら、この目標は達成できる。本当に簡単で、楽に達成可能な数値目標を掲げている。この指標をきちんと上げるなら、もっと具体的に例えば 3 万冊、4 万冊など、ぎりぎり達成可能な目標数値をきちんと原課で確認したうえで出してほしい。

原課とまちづくり課で、本当にやりとりがきちんとできているのかと、危惧している。細かいところを言うといくつもあるのであまり言わないが、そういったところは強く言っていただいて、しかも 2,000 万(円)をぼんとぶち込んで電子書籍を導入した。そういった新規の事業はやはりもっと目標数値を高く持って、町民に浸透されるようにといった取組をやっていくためにも、指標のところはもっと真剣に考えていただく必要があるのではないか。(委員)

- 今の点に加えて、これはライフステージに応じた学びの推進というくり。

そうすると、電子書籍の年間貸し出し件数で仮にいくとしても、今の意見はどちらかという

子どもを念頭に置かれている感じがするが、ライフステージに応じたということになってくると別に子どもだけの話ではない。そう考えると、年代別に目標数値があってもいいだろう。繰り返すがライフステージに応じた学びの推進がなされた時の状態、それと今現在との実態、ここのギャップをまず見てみる。そしてこのギャップをどうやったら埋められるかということを考えてあげなければいけない。ところが、この挙がっているのはメニューの充実と分かりやすい情報発信とあって、実感指標が生涯学習活動を行う機会を持つことができた町民の割合となっている。

ライフステージに応じた学びの推進とこの実感指標は連動しているだろうか。そこがやはり問題である。(会長)

- 「ライフステージ」といったら大きすぎると思う。だからこのライフステージをいくつかに分けていくという視点でもってこの現状、課題、方向性を考えていく。そして、学力の問題も不登校の問題も、全てそれぞれのライフステージにおける未達成の結果だと私は思う。だから市町村によっては不登校を防ぐために幼稚園・保育園と小学校が連携している市町村が出てきている。宇美町の特色として、より細かな教育を目指すのだったら、ある程度、記述は増えるだろうが、大ざっぱな区分けではなく、「子育ての時は」、「妊産婦の時は」、「高齢者の時は」などといった形で書かないと、行政の方自身が何をしたいか分からないのでは。

あと1つは、学校教育の充実のところにも不登校、いじめがあるが、今学校が一番課題として抱えているのが特別支援教育で、その課題の向こうにいる子ども達や保護者の問題も大きな課題となっている。したがって、ライフステージ、障害、その辺りで全ての項目をある程度押さえていくということが、より細かな行政というか、より住民から見たらありがたい計画になると思う。

今から書き足すというのは大変だと思うけれども、一番大事な部分が見えてくるような書き方をしていかなないと、役に立たないと思う。

特別支援教育を入れる。そして、きめ細かな子育てを小学校、中学校、高校まで宇美町はしますというような書きぶりをしていけばいいかと思う。ほんの1行、ほんの1文入れるだけで伝わるのではないか。(委員)

- 貴重なご意見。
ここも何だかんだ言ってこれまで行政がやってきたものをベースに組み立てているからこういう形になっているわけで、具体的な現場の問題といったところに着目して、理想と現実とのギャップが明らかにして、そこを起点にしてその対象ごとにきちんと分けて書いていけばいいと思うが、そういう書き方になっていないのでぜひ改善をお願いしたい。(会長)
- 8~9 ページで、就学前の子ども達くらいまでのことはすくすくや子育て支援センターゆうゆうや子育てサロンがあるにもかかわらず、本当の思春期になった子どもの親達のケアというようなものが、やはり子どもの後ろに親がいるから親のケアみたいなものが、この学校教育の充実をさせるうえで必要なのではないかと思う。地域の学力はイコール親の熱心さというようなことにも関わってくるので、何か親を取り込むような部分が抜け落ちているような気がするので、その辺りの一言が加わればいいのかと思った。(委員)
- 今の7ページの基本目標で、前回ご意見が出て「子どもの育ちを応援し」という言い方に変えた。「みんなで子どもの育ちを応援し」という文言だと「みんなで」ということになるので、そこには当然親も含まれる。そういった応援するという体制の中で親の支援というものもこのカテゴリーであれば入ってき得る。ところが、1-1は子育て支援の充実となってしまうと、結局対象は

子どもだけという、子育ての支援という形になってしまって、親支援という部分が入ってきにくいのかと思う。

「みんなで」など、そういうニュアンスをもっと大事にして、今おっしゃった、子育て支援というのは本来親の支援も含まれると思うがそこが入っていないので、ここの課題の書きぶりももう少しその辺りを変えていただければと思う。(会長)

- 筑紫地区の、ある市の子育て支援センターの中には、特別支援から発達相談から適応指導教室から複合で入っている。これからの市町村というのは、箱は要るかもしれないが、どこか1箇所を集めてその中でいろいろな相談ができる、子育ての相談もできる、不登校の相談もできる、引きこもりもできる、というようなあり方を示していかなければ。

幼稚園・保育園対象だけといった形ではなく全部をつないだような対応が魅力ある町につながると思うし、また、そういった魅力のあるところと魅力のないところがあれば、やはり魅力のあるところに住民が移る。

だから、ある程度将来の理想が見えるような形で、具体的になるかもしれないが、計画の中に入れていいかと思う。やはり夢と志に燃えた子どもを育てるのだというような意気込みがないと、もったいない。これだけの人数で、これだけの費用をかけてやる以上は、夢でもいいと思う。努力することが大事だし、町民もそれは感じると思う。(委員)

- 今のご意見、9 ページの一番上の子育てに関する相談体制の強化・関係機関の連携というところの中で、例えば1つの拠点に複数の機能が同居させるなどして連携を図っていきますと、例示的な形でもいいから少し一言そういうものが入ってくると、そういう方向性の足がかりができてくると思う。

単純に関係機関との連携を頑張りますと書いてしまうとあまり具体性がなくなってしまうが、一言そういう一定の方向性が入ってくるといいのかなという気がする。(会長)

- 15 ページだが、スポーツ活動の推進の中で必ず入れておかなければいけないのは、中学校の部活動改革のこと。教育委員会自体が外部指導者で乗り切ろうというように思っているかもしれないが、世の中としては、地域の中に中学生が活動できるスポーツクラブを育成して地域のスポーツクラブに部活動制を移行していこうといった流れが主になっている。その流れというのはここを見た時に全く見えてこない。

教育委員会は部活動の改革は全然やろうと思ってないのかということにもつながると思うので、そこだけは絶対に入れてほしい。部活動改革の目標とするような姿というものを、入れておかないとこの5年間全く動かないと思っている。(委員)

- ➔ 補足をさせていただく。スポーツのほうではなく11 ページ、学校教育の充実のところ、以前委員からご指摘を受けていたので、6 番の働き方改革のさらなる推進のところに部活動の地域移行に関する検討を継続して実施しますというところで教育委員会のほうから修正が入っている。これを起点として、先ほどおっしゃられたような地域のスポーツクラブに中学生を移行という考え方も1つの検討となっていくのではないかというふうに考えている。(事務局)

- それは学校教育の範疇に留まる話。特に学校教育の充実というところだけに書くとそういうふうになってしまう。私は、地域スポーツクラブへの移行というところを視野入れた改革がこれから見えてこないと駄目だと指摘している。要するに、これからは学校教育の範疇から社会教育の範疇に移っていくことが分からないと、なかなか学校教育のところから部活動が抜けきらない、

スポーツ庁が目指している改革にはつながっていないということを指摘させていただいた。ぜひその辺りを社会教育の視点も踏まえて勉強してくださいと言ってほしい。(委員)

- やはり、何だかんだ言ってどこまでいっても縦割りになっている。むしろこの総合計画の1つのポイントは、縦割りになりがちなものをここに書き込むことで連携を図っていただくこと。例えば、15ページの3の地域のスポーツ活動の推進のところ「地域コミュニティ、町内スポーツ関係団体との連携・協力を図りながら、部活動の地域移行も含め地域ニーズに合った地域スポーツ活動の推進を行います」と一言入れてしまえば、別にページ数を圧迫しない。ぜひお願いしたい。(会長)

- 14ページ。先日中学校の体育の授業を見た。宇美町ではないが、中学生でも鉄棒が全く駄目、それから前回り、後ろ回りも全く駄目な様子だった。振り返っていくと、小学校でも駄目だった。さらに振り返ると、幼稚園や幼児期はそもそも鉄棒で遊んでいない。

私は、遊びの文化がスポーツの文化に発展すると思うので、先ほど言われたように、やはり育てたいという環境の中に乳母車でも行ける場所があったり、子ども同士が安全に遊べるような場所というのを含めていかないと、今度はそこだけ、そこだけということになると思うので、ライフステージというつないだような形で埋めていくと全容が見えてくる。ぜひ、遊びの文化や遊びの場所ということもここで触れたほうがいいのかなと思う。

それから、遊びと不登校は関連していると思う。幼稚園や保育園の時に自主性や情緒の安定が不足すると、やはり不登校になりやすい。表面上に出てこない、テレビなどに映らない、という状況から減っているような錯覚があるが、不登校についてはどんどん増えており、私が20年間にいた時と比べると2倍になっている。

不登校という言葉を入れる必要はないと思うが、町としても大きな危機を感じて、例えば15ページに遊びの文化の復活や遊びの集団の指導のようなものも入れていくことで、今言ったような問題が解決できると思う。スポーツだけということではなく、ここに書いてあるように障害者も楽しめる、赤ちゃんも楽しめるようなことをしますよといったことが必要ではないか。(委員)

- 15ページの一番最初のところで、町民の誰もが年齢や性別、障害の有無にかかわらず、それぞれのライフスタイル等に応じていつでもどこでも運動することを楽しむことができる機会と情報提供し、ライフステージに応じた運動、スポーツの推進を図りますとあるので、この「いつでもどこでも」という前に例えば子どもの遊び場、自由に遊べる場を普及するなどといった文言を一言入れれば、委員が言ったようなことも包括できるかと思う。確かにここも1つ足がかりになるかと思った。大変ありがたいご指摘だった。(会長)

- 8~9ページの子育てのところになるが、8ページの一番上の現状の一番上に「子育てに関する負担の軽減」とある。下には負担とはあまり出てこず不安のほうが出てくるので、もしかしたら「不安の軽減」なのではないか。子育てはいつの時代でも負担感はある。特に今あるのは周りの支え、サポートがないという問題だと思う。知っている人や隣の人にも相談できないで抱え込んでしまうというのが、多分今の負担感や不安感だと思う。

うちの団体でも子育てネットをしているのは、つながりのほうを作っていくって、子どもも育つし親もともに育ち合おうといったところをコンセプトにしている。子育てをしていくと親も育っていくという構図があって、全部つながっている。スポーツのつながりも作っているし、いろいろなものが育ち合ったり学び合ったりしていく。この子育て支援の充実だけ見てしまうと、相談

場所がたくさんあるのはうれしいが、親が育つ支援のようなつながりが作れたり、そのために交流する場所が必要だったり、根本的なところが言葉としてどう入っていくか。

間違いなくアンケートでも子どもの遊び場というのは絶対に出てきているはずだが、それはここでは一言も書かれていなかったり、遊ぶ姿を見て公園で親が集まったり、子ども達が祖父母も地域の人達とも一緒に公園で遊んでいる、集まっているという風景が本当はあったらいいが、今の若い人は忙しいということもある。子育てを負担に感じるような文言はマイナスイメージかと思ってしまうが、これが現状だから仕方がないのだろうか。負担と思ってしまうと何でも負担だと思ふ。

仕事にしても家事にしても負担と思ってしまうえば負担になるが、負担ではないように周りがサポートする、そういう感じに変えられないかと思う。こんなに負担を感じているのに誰も助けてくれないとお母さんが思ってしまうほうが実は不幸な感じがして。(副会長)

- 子育ての負担の軽減に努めますではなく、安心して子どもを育てられる状況を作り出しますなどという書き方のほうがいいということだろうか。(会長)
- そうしたほうが、「希望」がある。やはり「希望」が欲しい。(副会長)
- 希望もあるし、負担軽減というとマイナスをゼロにする感じだが、今のお話はそれを通じて親がいろいろなつながりを持ち、親自身も豊かに生きていくということだと思ふ。

安心して子育てができてつながりが持てるような環境を作っていきますというような前向きな感じで、かつ広がりを持つような文言にしたほうがいいのではないかというご意見かと思ふ。考慮していただきたい。(会長)

- 言葉にするのはとても難しい部分だったとは思いますが、宇美町として、子育ての支援の充実というところで資金やお金の規模ではないが子育ては大変だけれども尊いものでもあると思ふ。歴史として宇美町はずっと子育てというものは伝えてきた部分だと思ふので、その尊さの部分もとても大事なこと。本当に、その子育ての間というのはとても貴重な時間だと思ふし、育てている側の親としても大事な時間を過ごしているのだからそこに肯定感を見出すというか、その部分を伝えてあげられればいいのではないかと思ふ。

父母にもその部分が伝わる文言を入れてあげられればと思ふ。地域性としては間違いのない部分を宇美町は歴史として持っているのだから、その部分を入れてあげられれば。

もう1点、6-1の42ページ。まちの魅力向上のところの現状の人口減少。現状のところを言ってしまうが、0~4歳および20歳代および30歳代において転入者と転出者がともに多くなっているとなると、入ってくるのと出るのがともに多いとプラスマイナスゼロなのではないかと思ふが、これは元々減っているのだから転入者が増えていないのではないか。(委員)

- ➔ 補足させていただいて、現状のところの書きぶりが誤解を生むような感じになっていて申し訳ない。転入者と転出者はここに書いてあるとおりに多くなっているが、人口の今減っている原因というのは、やはり生まれてくる方が少ない。そして、高齢化が進んでいて亡くなる方が多いので、生まれる数よりも死亡される方が多いのでだんだん少なくなっている。そして、そこを少しカバーする格好で、今は若干転入者のほうが上回ってはいるが、死亡される方の減り方を上回るところまでは達しておらず、このままの傾向をたどると人口が減少することは間違いないだろうという見込みとなっている。伝わりにくいようなので、若干ここも表現を考え直したい。(事務局)

○ まず1点目。

8ページの現状のところの子育てに関する負担の軽減、このキャッチフレーズは、現状であるから現状のタイトルとしていかなものかという感じもするし、ここの中で本来子育てというものとは素晴らしい体験であるにもかかわらず、その素晴らしい体験につながるどころか不安に、あるいは負担に感じる人たちが一定数いるというようなことを一言入れておいて、今後の方向性としてはもちろん不安の軽減ということもあるが、そのことにとどまらず子育てをすることが人生の貴重な機会、これはいろいろな可能性を持っているわけで、そこを広げていくような施策の方向性をここで打ち出しておくということではないかと思う。

もう1点。

42ページだが、これはそもそもここは一番「宇美町がいい」という時のキーポイントだと思う。この「まちの魅力向上」という時に、そもそもどのような町にしたいのかということがあって今現在のギャップがあって、ここをどう埋めるかという話なのに、ここの話は人口減少などといった話であって、施策の方向性、移住定住促進の効果的な情報発信、まちへの愛着を育む、文化財の適切な保存と活用、歴史民俗資料館の運営、これを推進すればまちの魅力が向上するだろうか。そこが問題である。ここでまたつながっていないという感じがする。むしろまちの魅力向上の指標の1つというか、それがまちへの愛着度も高まりということかもしれないが、まちの魅力向上と愛着を育む、これは原因と結果との関係のような話である。施策の方向性が愛着を育むとはどうなのか。あと、移住定住というのはまちの魅力向上の結果ここにつながっていくわけであって、このタイトルと中身が不一致の状態だという感じがするので、ここは全面的に書き直していただいたほうがいいのではないかと思う。(会長)

○ さらに3つ～4つ指摘をしておかないといけない部分がある。

まず、28ページだが、課題の中で、真ん中のところ、公共交通機関の利便性の向上が必要であるというところである。どのようなところがなかなか見えてこない。宇美町の課題としては、やはりJR宇美駅前広場を発着としたバス路線が少ないということが大きな課題ではないか。例えば、太宰府と宇美町を結ぶ宇美太宰府線がある。そこには町も補助金まで出して路線の存続をさせようとしているが、これはJR宇美駅をきちんと発着点・帰着点にすると乗客も増えてくるだろうというところもあって、また、その道もかなり広がっている。4車線が今年中に、大野城のところだが開通する。そういった宇美駅と西鉄沿線の駅、これを結ぶ路線がないということが、やはり大きな課題ではないかと思っている。そこで29ページのところ、宇美駅を中心とした持続可能な地域交通の仕組み作りに結び付けるためにも、やはり宇美駅前広場の発着をするバス路線の開拓というか。その目の前にある西鉄ストアの横の広場を帰着点とするのではなく宇美駅を発着点・帰着点とするようなものを、ぜひ書くべきではないか。ここに対してはぜひまちづくり課辺りがしっかり協議を進めていただけたらとも思っている。

あともう1点が31ページ。

ごみ処理のことだが、今、粕屋、須恵、篠栗の3町と志免、宇美は分かれている。これを「広域的な」とぼかさないうで、きちんと5町連携を基軸にしたなど、そういったところを明記しておくということは、私は非常に重要なポイントではないかと思っている。5町連携という枠組みは確立していないので、そういった枠組みを確立しなどといった文言をきちんと入れることによって、将来のごみ処理の約束ができる。そこに結び付けてほしい。そこはぜひ書いておかないとい

けないのではないかと考えている。

また 33 ページだが、空き家対策の推進の中で今不動産業者の方々と協定を結んでいる。空き家バンクの協定を結んで、その協定を結んだ空き家バンク制度を利用して住民の流入というものを増やしていこうと思っているが、ここは書いていない。空き家バンクをしっかりと動かしていくとか、その制度を活用し、などぜひそこもしっかり触れていただいて、今、全く動いていない空き家バンク制度をしっかりと動かすというところは、明記をしていただきたいと思っている。

35 ページ、一本松公園の整備というところで、ここに書いてあることをそのままやっても行き当たりばったりの整備になりかねない。必要なことは、きちんと整備計画を策定して整備を進めていく。その整備計画を作るために、策定審議会や一本松公園整備計画策定審議会などといった審議会をきちんと立ち上げて、民間事業者や専門家の意見をきちんと聞いて一本松公園を魅力ある公園に変えていく、整備を進めていくといったことが必要ではないかと考えている。このままやってしまうと、行き当たりばったりになってしまうので、その辺りはしっかりと方向性を示していただきたい。

最後 41 ページだが、農業の振興というところであるが、今、宇美町全体として、農産物の出荷額が多分 200 万～300 万くらい。そのくらい少ない。せっかくなら、福岡県産品 16 品目か 17 品目か、そういったものとしてしっかりと絡め合いながらふるさと納税の制度をうまく活用して、マッチングしながら農業の振興に結び付けていくということがほしい。

特にあまおうなどという物は宇美町で非常に高い額のふるさと納税の返礼品で出ているが、実はひと粒も宇美町で作れていないという現状。何とかこの農業のところ、ふるさと納税制度を生かしたことをやっていただけたら。ここに書かれているだけでは多分何も進展しないと思うので、ぜひお願いしたい。(委員)

- いろいろなご指摘も妥当だと思う。というのは、特に後半になっていけばいくほど分析になっていない。全く分析が入っていないところが多く、例えば土地利用と公園の整備といった時に、何度も言うがあるべき姿と現状とのギャップをまず明らかにしないといけない。そこを埋めるために何をどうするかということを考えなければいけないわけで、ここの課題のところは一本松公園が快適に利用できるようになるための公園のあり方自体がやはり十分ではない。快適に利用できていない部分があるから、そこを専門家や住民も交えてきちんと議論してやっていかなければいけないという話なので、そこはきちんと課題で明記されなければいけない。ところが区画の整備やマナーの向上が必要ですねとなっていて、右側の施策の方向性では整備となっていて推進しますというような話になっている。そうではなくこの課題を具体的にどのような方向で進めていくのかという、そこはギャップが、どこに原因があるのかと分析しないと施策の方向性は出てこない。現状では、施策の方向性はこれをやりますということしか言っていないで、方向性を示していない。なぜ方向性が示されて出てこないかというと、分析ができていないからだと思う。

この辺りは全般的に今言ったような一連の作法をもう一度原課に取っていただいて、調整いただけたらいいかと思う。(会長)

- 18～19 ページだが、そこに地域共生社会という言葉がある。これからの社会、地域共生社会の実現は非常に大事なことだが、その中で今までは若者が高齢者を支援したり、していただくが多かったが、これからは元気な高齢者を含めた皆で社会弱者辺りを支援していくということが大事になってくる。その言葉があまりないようなので、そのような言葉をぜひどこかに入れほしいと

思う。(委員)

- 確かに 19 ページの地域包括ケアの推進や地域の支え合いの推進が本当は該当するべきなのだろうけれども、ここに今おっしゃったようなことが明確に入り込んでいないということなので、検討いただきたい。本当に重要な視点だと思う。(会長)

➔ そのご意見に対してだが、20~21 ページのところでもアクティブシニアの活躍促進というところを書いている。先生のご指摘では、地域で支えあえる福祉の環境ところでもやはり高齢者の活躍が必要だということで、ご指摘として受け止めたいと思う。(事務局)

- なるほど、ここに書かれている。(会長)

- 年齢にかかわらず、いざ町のためにと言ったら立ち上がる中学生や高校生も、大人も、私を含めて高齢者もいると思う。だからその辺りの熱意というか愛着心を大事にしながら町を作りますという見せ方を、例えば 42 ページからずっとどこかに入れていただくということが大事。

また、町の魅力として福岡市都市圏がある。福岡市都市圏といったら交通以外に文化や人材、学術関係の建物が多い。今日も九大から来ているが、だからどんなに端のほうの町であったとしても、文化やアカデミックな情報をいつでも取り入れながらまちづくりに貢献しますといったことを入れていかないと、これだけ情報化が進んで最先端の学問や建築学や社会学などがあるのに宇美町は取り入れているのかという感覚がある。

実際は入れていると思う。皆さんの研修でもいろいろなところから最先端の情報を仕入れていると思う。それをやはりここで見せない、町の魅力や持続可能ということは弱くしか伝わらないと思うが、どうか。私だったらやはり大学などについて書く。たくさん大学があって、たくさんのいろいろな情報や先生方を招聘しながら、子育てであろうと教育であろうと、町の行政であろうと作っていきますよという見せ方をしないと。交通の便からいったら志免などを選ぶ。だから隣の町よりもやってやろうというようなものにしたらいのではないか。(委員)

- 「宇美町がいい」ということとの関連もあるが、そういう強さがないと宇美町がいいとならない。これまでどおりやっていることの延長線上でこういった方向で充実していきますと書いても、あまり伝わらない。

宇美町の強みとは何かいろいろ聞いたはずである。住民アンケートでも聞いているし、実際に一番表紙のところに入っているはずなのに、いざこの施策の方向性を考える時にはそこは抜け落ちてしまうという傾向にあると思う。(会長)

- 41 ページだが、農業の振興について施策の方向性ということで意見を述べたいと思う。

1 番目に、認定農業者制度の農業機械等の補助など、担い手の育成というよりも高齢化によってこの先何年今のメンバーで農業をやっているのかという問題がある。

2 番目に、農業生産の基盤の整備ということで町内にある 21 箇所のため池について点検・整備を行い、機能低下が見られるため池については国、県と協議しながら計画的に解消しますとあるが、これは町の行政として考えていただくとして、現実的な問題として、これらの農業生産基盤の施設の管理は誰がやっているのかといったら、ここでもまた高齢化という問題がある。

例えば、ため池保全に関わる者の高齢化。清掃あるいはため池貯水量の管理といったものを行っている。台風被害で堤防が決壊したという話もこの地域では聞く。そして、ため池で管理責任が問われた例として、西区のほうで子ども達が 3 人ため池で水死したということも、実際われわれ現場に関わる人間としては、大変深刻な問題である。将来利用されないため池については廃

止に向けて取り組んでいきますというコメントがあるが、今現在、あるいは明日このような問題が発生したらどうするかということは、高齢化によってその経験と勘どころというものが継承できない。継承する人がいない。どうやって来管理していかうかということが頭を悩ませるところである。(委員)

- 今のご意見を私なりに整理すると、まず分かりやすいところを言うと、農業生産基盤の整備となっているが「整備・管理」などにしておく。今のご意見は、改修は国や県と協議しながら改修して、これは自治体が行き組むものだと思う。しかし、日常的な管理については地元の人達がやっている。その地元の人達は高齢化していて管理が難しくなっている。それは、ずっと先まで進んでいけばため池自体がもう不要という話になってくる。その時には廃止ということでこれは簡単だが、その間をどうするのか。管理の体制ができていないということに対して何らかの手を打つ必要性はないのかというご指摘ではないか。

そこで、「農業生産基盤の整備・管理」としていただき、「計画的に改修します。」「管理が不十分なところについては適切な管理がなされるよう対応を考えます。」という一言が入るといいのではないかという気がした。(会長)

- これはどこに入れたらいいのかと非常に悩むが、提案として、42ページのまちの魅力向上というところに産官学の連携というものをに入れていただけないかと思っている。特に産業と官、行政と連携というのは、ここ最近でいうと住民福祉センターの体育館に換気装置を設置し、モニタリング調査を始めたり、不動産業者と町が連携して空き家バンクを設置した。まちを良くするために、産官の連携を深めるとともに、大学との連携といったところをこれからいかに構築していくか。

具体的な例で言うと、例えば福岡大学に昔体育学部があった。今はスポーツ科学部とっている。そこの生徒と小学校を連携させて体育の授業を学生に行ってもらうとか、福岡市ではそういった連携に取り組んでいる。そういったものをうまく活用していくと、町の未来にも明るい兆しができていくのではないか。産官学の連携というものを、もっとこの5年間辺りで進めていくようなものがどこにもない。その辺りはぜひ記載していただきたい。

もう1点、44～45ページ。地域コミュニティのシンポジウムなども行かせていただいたが、やはり課題としてはコミュニティの情報発信力がかなりきつところではないかと思っている。そのことは45ページの2番目、コミュニティへの参加を促すためにデジタル技術の活用をした云々ということが書いてある。このデジタル技術を活用したというのは多分SNSなどの情報発信力をしっかり強めながらということイメージしていると思うが、そこをもう少し具体的に書いていただくとともに、コミュニティの情報発信力を強化していくことが重要。それに関連して、次の公民館のWi-Fiを設置していくといったところにもつながっていく。この情報発信のところは次の機構改革の目玉になってくるのではないかと思っている。そういったところももう少し具体的に記載をしていただけたら、今後の地域づくり、共働のまちづくりのところの課題とやるべきことが見えてくるのではないか。

44ページの3番目、ボランティア・NPOなどの活動の支援というところで、宇美町はNPO法人は多分2団体しかないのではないかと思っている。その2団体はしっかり活動していただいているが、NPOの設立の支援が欲しい。ぜひNPO法人の設立に向けた支援、こうなるといういろいろな団体が自立してもっと活動の幅が広がってくるのではないかということもあるので、ま

ちづくり課、あるいはボランティアセンターが中心になってくるかと思うが、ぜひNPOの設立支援をしっかりとやって、宇美町に10~20団体ほどNPO法人ができて、それぞれの団体が自立して活動できるように。こうしたことが実現すると、共働のまちづくりがもっとどんどん活発に推進されていくのではないかと。そして、指標の中にNPOの数などを入れたら、具体的なものが見えていいのではないかと。(委員)

○ 非常に貴重なご指摘。

共働のまちづくりが推進されている状況はどのような状況なのか。NPOがたくさんいろいろ活発に活動していて、なおかつ地域と連携したりしてといた状況には今はなっていない。このギャップを埋めるために何をすることが課題である。その課題を推進していくうえでどのような方向でいくのが施策の方向性であるが、結局これは今やっていることを並べているのでこれだと意味がない。まさに、今おっしゃったように課題としてNPOが、他の地域と比べて人口当たりのNPOの数が少ない。コミュニティが高齢化していて、それを支える仕組みが十分でない。十分でないという、何がどう足りないのか。何をどうすればいいのかということが施策の方向性で示されなければいけない。とすると、デジタル化は大事だと思うがデジタル化でいいのかということである。多分課題の分析ができていない。だからデジタル化など最近はやりのことだけを言ってしまうと思うが、もう少しきちんと分析していただかないとこのあるべき姿は実現できないと思う。大学の話もおっしゃるとおりで、やはり今やっていることの延長線上で考えてしまうからそういったことが出てこない。

あるべき姿を描いたうえで、そこでは大学の学生達が地域に入ってきていろいろな、子ども達を教えてくれて、宇美町で育つと大学のお兄ちゃん・お姉ちゃん達にいろいろなことを教えてもらいながら楽しくできる、そういうことが理想としてあるけれども、今はできていない。ではここを埋めるためにどうするかということで、産学官連携というものが出てくる。何度も申しあげますが、どういう姿を理想像として描くか。ここをまずしっかり描いたうえで、現状を見てギャップを見る、原因分析をする。この段階をきちんと踏んでいただきたいと思う。(会長)

○ 今、たくさんの方のお話を聞きながら思ったが、恐らく5年後、10年後は様変わりしている。町の方の仕事も恐らくAIに置き代わったり、量子コンピューターが今出てきているので様々なことが変わったりしていく。その中で、住民のボランティアや、やろうとしている人達をコーディネートするような仕事が恐らく役場の人の仕事になると思う。お金がない、人がいないように見えても人材は豊富だと思うから、ボランティアをしてみたい、農業をやってみたいという人達をいかに引き出してまちづくりに生かしていくかという発想を持っていくということが5年後、10年後かと思うので、特に後半の部分が未来の展望につながると思う。

だから、そこは今出たような意見を集約して、22世紀型のものをやっていくというか。先ほど農業のことも言われたが、農業のことは子ども達もよく知らない。ただ、農業がどうなっていくかは分からないが、農業に対する理解者を増やす。そのためには学校が農家の方を招くとか、今やっているところもあるがコメづくりをしたり、一連の火を付けることでできそうなところに働きかけたりすることがまちづくりのあり方ではないかと思う。(委員)

○ その件で付随して、いいか。

14~15年前から組合でため池の管理や農業指導の管理をやっている。その当時は三十数名以上の方がボランティアで、あるいは農業従事者が関わってくれていたが、今現在では担い手が激

減している。なぜかという、先ほど言ったように高齢化の問題もあるし、後継者、男性がいない。農家に女性しかいない。そのため、残されたわれわれが農業機械を担いで池の堤防の草刈り作業や農業用水の清掃などをやっているが、私は七十数歳になる。いつまで続けられればいいのかという思いがある。友人の農地の管理のためにやっているが、担い手が激減状態にあるというのは非常に不安である。(委員)

- 今のため池の例で言うと、いろいろな地域で最近結構増えてきているのは、逆にこれを1つのイベント化する。逆に参加料を500円取って都会からため池掃除体験ができる。その代わり、そこで掃除するといろいろな生物を発見できたり、そうするとその生物を学校の先生で詳しい方が解説してくれる。そうすると皆子どもを連れてやってきて、500円は何かというと地元のお母さん方が地元のご飯を作ってくれたりして、それを最後作業が終わったら皆で楽しんで帰っていく。意外かもしれないが、これが結構人気で盛り上がる。

『トム・ソーヤーの冒険』があるが、トム・ソーヤーがペンキ塗りをやって大変だ。これを彼は考えて楽しそうにやる。そうすると、友達がペンキ塗りをさせられて大変だなと、俺は遊んでいるんだと言うと、トム・ソーヤーは楽しいんだと言う。こんな面白い仕事お前に絶対やらせてやらないと言い始めると、皆やりたくなくなってしまふ。それと同じような話で、500円自分で払ってまでやるという体験にすると、逆に人気が高まっていく。

でも、それをやっていくためには、やはりそういうものを催してくれるNPOなどとの連携が大事になってくる。そうすると、今のこのNPOがもっと増えていかないといけないのではないかということになってくる。だからやはりそういうことで言っても、縦割りだけで考えてしまうといろいろ出てこない。そういった点を含めて、例えばため池のところで「整備・管理」としておきながら、他の民間団体との連携も推進しつつ管理不全の手助けをするといったことを検討するなど一言入れておけばそういったことが推進できるし、NPOにしても、あるいは若者達の中にも関心を持っている人が実際にいる。

ある町では何をやっているかという、このような人材が欲しいというようなことのセミナーを自治体がしたりする。そうすると、意外とそこに若い女性などで子育てが一段落して何かやってみたいという人達が、手を挙げてセミナーを受けてくれる。例えばホームページ作りなどで、そこでホームページが作れる人が育成されるので、その人を地域に紹介してお手伝いしてもらえませんかとつなげてあげたりする。そういう形で回していく。共働のまちづくりと言った時には、そのように行政が人材発掘や人材育成などを手伝いつつ、そこを地域につなげてコーディネートする。

それで自治体やコミュニティだけではなくため池のようなところで知恵を出してもらうなど、いろいろな人達が知恵を出し合いながら協力して町を作っていく。そのあり方が実現できるように、これから5年間でどうするかということがここに出てこなくてはいけない。今はそのようになっていない。そこを改善していただきたい。(会長)

- 39ページの5番目、まちの魅力づくりと関係人口・交流人口の創出とあるが、それは観光について何か具体的な計画などがあるのかどうか。と言うのは、宇美八幡などがあるがその近くに小林酒造がある。やはりそうしたところを盛り上げて1つの観光ルートを作るべきだと思うが、どうかとお伺いしたい。(委員)
- ここも分析、課題などかなり抽象的になりすぎている。

観光施設と飲食店や商業施設の周遊性を高める仕組みが必要だと書いてある。では、高めるために何がどう足りなくて何をどうしますかという、その分析があれば施策の方向性が見えてくるが、そこができていない。今のご指摘、具体的な案も含まれていたが、原課のほうに投げ掛けていただいて、まさに現状の中でも分析の中で今出てきた小林酒造の活用も含めてどう考えているのかということ、施策の方向性でお示しいただければと思う。(会長)

- 42 ページ、このまちの魅力向上の現状で、いきなり人口減少という言葉がある。最初に見る言葉の言霊というか力というものがあるので、いきなり負のものを持って来るよりは、せめて「人口」などと表現してはどうか、という気もしている。

例えば、自然豊かで、宇美八幡宮があってというところで最近では一本松公園のトイレが改修されて多くの方が行きやすくなったと言われていたり、宇美八幡宮もトイレやいろいろな設備が改修されて、若い方が宇美八幡宮に来て遊び場にもなっているという現状もあるので、まちの魅力の向上のところで現状でもいい点も足していっていいのかと思っていた。

また、44 ページ、共働のまちづくりの推進のところ、まちづくりへの町民参画ということで、「町民、地域などとともまちづくりを進めることが不可欠です」と、これは確かにそうなのだが、「まちづくりと一緒にやりたいな」と思うようなここの書きぶりになるとより良いと思う。

地域コミュニティの活性化というところも、「若い世代の地域活動への関心が低下しており、地域活動の担い手が不足しています」と書いてあるけれども、若い世代でも関心を持っている人もいる。持っている人もいて何かしたいけれどもやり方が分からないという方もいるので、若い世代の人でこれを読んだ時に関心が皆低下しているのだと思われかねない。何か「希望」があるところがないと、そのまましぼんでしまう。何かわくわく感がないと。例えば、「若い世代の地域活動への理解を深めることが必要です」など、全体的に希望をちりばめていく文言が欲しいなと思う。(副会長)

- ポイントは2点。

まず1点目として、人口減少などこういったマイナスのことを示さないほうがいいのではないかという点に関しては、私はここは課題を導き出していくうえでは、マイナスの言葉を挙げることは別に問題ではないし、個人的にはそこははっきり示したほうがいいという感じがする。

一方で、2点目だが、これは委員のおっしゃるとおり。先ほどの例で言うと、共同意識や連帯感が希薄になってますや、地域活動への関心が低下していますと書くのではなく、地域活動への関心を持っている若い世代がいてもそれを十分吸収できていないとか、あるいは関心を高めるような部分が不十分であるなど、相手のせいにするのではなくこちら側の課題として、こちら側の問題としてきちんと語っていくことが必要だろう。

人口減少に対しても、人は減っているのだけれどもそれに対しての有効な対策が出ていないという、行政側の問題として語らないと、相手に対して何か責任を押し付けているような感じになってしまうので、なえてしまう。

厳しい現状を書くことはいいけれども相手がなえないように、行政側の課題につなげていくような形で書いていただくことがいいかという気がした。(会長)

- どの世代も町に貢献したいという潜在的な意欲はある。4～5年続けて視察に行ったが、春日市のある中学校は、コミュニティの会議を中学校で行う。そこに地域の代表者を集めて、地域の方が、今度老人会があるからおいで、花植えをするからおいでと言う。またその代表者が、地域

の中学生にそういったことを伝えてボランティアで参加する。地域のために貢献したいという潜在力を沸き起こすようなきっかけを作っている。

全ての住民にまちづくりへの関心はあると思うから、それを引き出す。ここの文章で言えば潜在的な地域貢献の意欲や、町をよくしたいという気持ちを引き出せていないというような書き方をしたほうが良いと思う。やらないから一見無気力に見える。やればかなり集まる。(委員)

- やるとまた達成感ではないがやりがいにもつながっていく。(副会長)
- PTAでもそう。ボランティアやその他がかなり来る。(委員)
- PTAになるのも二の足を踏むが、いざやってしまったら、先生とつながりができる、楽しくなる。働きかけのやり方が重要。(副会長)
- 地域づくりへの関わりは will、can、must、この3つの重なりが大事だと言われる。mustは地域によって不可欠でやらなければいけないこと、町内会や自治会の方々を中心に、この must というものがとても大事にされてきた。今おっしゃったように、この must の部分について手挙げ方式でやると意外と来たりすることもあるが、確かにそういう人が減ってはきている。逆に今よく言われるのが will、したいや、できること、can。できることから、あるいはやってみようというところで気軽に関わっていく。そして、そこから入ってきていただくようなあり方をしっかりしていくといい。例えば、福津市などの地域福祉コミュニティでは、地域活性化部会という部会を設けている。そこは何かというと、若者達が何かやりたいという時にそこに声掛けすると応援してくれる。あるグループが地域の空き家を使って音楽会をやりたい。ところが、それをもしいきなりやってしまうと、当然周りからうるさいと苦情が出てくる。

そこで、そのコミュニティに相談することの意味が出てくる。そこに町内会・自治会の方も参加されているから、彼らにきちんと話を通して協力してもらおう。逆に、町内会・自治会の方々もそこに見に行かせてもらおうか。地元の人は無料にしてくれないか、少し割引にしてくれないかなど、そうするとその町内会・自治会にとっても、少し寂しかった地域が逆に音楽会で盛り上がる。そうすると、元々は個人の単なる will だった、あるいはしたいという思いだったのが、公共的な皆のものになっていく。

こういう仕掛けがどのくらいできるかというのが、実はコミュニティ組織を広げていったりするうえでも大事になってくる。そういうものが施策の方向性などで見えてくるといい。そういうものを促すとか、その辺の分析がやはり足りていないかという感じである。(会長)

- 39 ページの施策の方向性の3に創業支援事業の推進というところがあるが、ここに関しては小林委員が一番分かっておられる部分ではないかと思う。苦勞してヤギを育てて、それでヤギミルクを作って販売するようなことをゼロのところからやり始められた時の苦勞というようなものを一番分かっておられる。こうした方の意見を、何かうまくここに反映したら、小林委員に続く人達が出てくるのではないかと、この宇美町で起業したいというような方達がスムーズに操業できるルール作りのようなものを、ぜひとも小林委員と行政とで考えてもらってフットワークのいいものにするため、もう少しこの言葉を砕けたものに、具体的なものになればと思った。(委員)
- 例えば独立開業に向けた伴奏支援という言葉にして、例えば、伴走支援のお1人として小林委員にお願いしてみるといった形はあり得るだろう。(会長)
- 創業については、社会課題や社会的な問題点などがたくさんある。総合計画では、NPOやボ

ランティアなどで解決しようとするが、NPOはNPOでまた収支が非常に厳しい。また、これらを維持するために税金を投与できるのかという問題もある。

ボランティアの人達に無償で働いて、動いてもらい続けるというのは大きな負担しかなく、かといって、ビジネスとしてはNPOは稼いだらいけない、儲けてはいけないということもある。本当は、その間の部分の社会的企業というか社会的な経済の課題を解決するためのビジネスというものが、間に存在するはずだが。

僕はそれをやりたくてやっているが、その社会的なビジネスは今意外と立ち位置がなく、そうした社会課題を解決するための「ソーシャルワーカー」というところもあると思うが、その部分を支援する方法があればいいと思う。その部分をいろいろと、課題は各課それぞれにあると思うが、それを横でつながりながらつなげるというか、課題を解決する人達、起業する人達や若い担い手の人達を探して支援していくというところが必要。それこそNPOを立ち上げるのも、今は2団体しかないけれども、スタートアップを支援する場所や、農業を今後やりたいという人を支援する場所というか。

そういうものを作っていかないと、ボランティアだけ、NPOだけではもう成り立たないような時代にもなっている。宇美町は、福岡市内が非常に近い場所で、立地的にとってもいい場所にあるので、稼ぐ方法はいくらでもあると思う。そういう特性というか利点を生かす場所を作ることも、魅力、活性化、共働、農業振興など計画に盛り込む場所はたくさんあるのではないかと思う。(委員)

- 今のご意見を踏まえるならば、この P39 ページの創業支援事業のところで、起業塾のコースを社会的企業のようなソーシャルビジネスなども対象に広げていくなど、起業塾のコースの充実をもう1つの柱で入れておきたい。

あと1つは、先ほどのNPOのところ、45 ページ、ボランティア・町民活動支援センター『ふみらぼ』、これがNPO支援と社会的企業支援、あとコミュニティ支援というように機能アップさせるということが重要なポイントだと思う。今これはボランティア活動支援に留まってしまっているから、もう少しここを専門性を高めて利用できるようにしていったらいいと思う。一応、今のものだと「町民団体、ボランティア、NPOなどの」とあるが、むしろNPOなどが全面的に出てくると専門性が高まってくる。(会長)

- 42 ページのまちの魅力向上の範囲に含まれてくる話ではないかと思うが、宇美町にはまだまだ魅力的な、歴史的な、有名なところはいろいろある。それ以外にもまだまだ魅力的なところがあると思う。例えば、四王寺山に昔四王寺というお寺があったらしい。「らしい」というのは、歴史的な文献しか、実際どこにあったかは分からないという、これは不思議だと1つ思うことがあった。それと、独鈷杵という仏教で使う物が見つかったが、これがどのような経緯であったのか、詳しいことが分からない。

こういった歴史的な不思議なことも、「何だろう」と、観光的に売り出せないか。この歴史の不思議を皆で解き明かそうというような感じで、そういう売り方をできないものか。まだまだ歴史的な魅力が十分活用できていないのではないかというところがある。

売り方という話が少し出たが、9月に市で大野城市が市政50周年の催し物をやっていた。春日原の地上線が廃線になって駅を改築する。地上は廃線にして上を通すから、廃線ウォークをやりますと言って9月の10日辺りだったかに線路の中に入っていい。普段は入れない線路の中に

入って歩いていいと。それが抽選になっていて、私は行ったが午前中に行ったらもう入れなくて、午後2時間ほど長く並ぶ。皆、線路の廃線ウォークをやりたい、やりたいと言って集まってきて、お土産に線路の中に入っている石を持って帰っていいという催しだった。普通に考えたら、そのような石に何の価値があるのかと言いたくなるが、説明によると、これは100年前からこの線を使っているから、もしかしたら皆さんが帰った中に100年前の石が入っているかもしれない。「歴史がある」と言われたら、皆持って帰る。

だから、「物は言いよう」ではないが、売り方を考えて宇美町に当てはめてみたらいい。昔、宇美駅と勝田駅があった。勝田線の名残が残っているから、勝田線の名残を探索するツアーのようなものを作って、昔ここに勝田駅あって勝田線があって、勝田炭鉱からトロッコを使って石炭を運んでいた名残というものがまだ残っているので、そういうものを探索する歴史的な観光ツアーなどを組んでみるというのも面白いかもしれないと思った。ただ、少し地味だと思う。それだけではなかなか。(委員)

- なるほどと思ったのは、43ページで文化財の適切な保存と活用とあるが、文化財保護法が改正されて、国の重要文化財などは人が呼べるからいい。しかし、町内の有形文化財や県指定、町指定などはあまり集客力がないので、これを保存というよりはむしろ活用して生かしていくべきだという話がある。どうやったらいいのか具体的なイメージが私は掴めなかったが、なるほど、そういうある種歴史オタクというようなところにターゲットを絞りつつ、あとはやはりここで指定文化財ではなく、ここでいう文化財は今おっしゃった廃線も含めてもう少し幅広く文化財を捉えたうえで活用していったらいいのではないかというお話で、それは1つ示唆に富むご意見かと思う。

書きぶりとして、今は「さらに指定文化財の公益的な活用を図り、地域活性化、観光振興や推進に役立てます」とあるが、指定文化財だけでなくもう少し地域にある古い物、あるいは伝説といったものを含めて活用していくという形で、今のご意見を取り込んでいったらいかがか。(会長)

- 本日は町民憲章モニュメントの除幕式があり、出席なさった方もいらっしゃると思うが、100周年という言葉が出てきた。もう既に2年過ぎて、あと98年で200周年がくる。この資料には、全体的に未来がない。子育て、それからボランティア問題、これは現在どこでも可能な限りやっているところがある。だがやはり未来を考えると、文化財や歴史で宇美町は飯が食えるだろうか。僕は食えないと思う。

私は四十数年前に香川県の坂出、今の瀬戸大橋の玄関口、四国の玄関口で、そこの地質の海底地盤工事に携わったことがある。坂出という村に何があったかというニワトリ。観光は食べ物と景観だ。

景観はこの山にロープウエーを引いたら博多が一望できる。食べ物は、ニワトリの足が有名な坂出に勉強に行かれたらいい。そのくらい有名でおいしい。ということは、鶏舎も要る。例えば、そのようにして100年計画を入れたほうがいいのではないかと思う。

コミュニティ活動について申しあげるが、これはもうかれこれ6年あるがどこの小学校コミュニティも盛んに立派にやっている。しかし、一番ここでコミュニティとしてよかったという話題は、垣根のない隣組との付き合い。宇美町の場合は何らかの町内会が1つになって1つのコミュニティになっているが、今までは自治会そのものだけで垣根があった。コミュニティができて垣

根がなくなった。そうしたところも素晴らしい魅力ができたということである。

何か私の未来について、皆さん魅力を感じないか。天満宮まで観光バスはいろいろ通過して行ってしまう。天満宮はそこにあって、宇美町そのものは素通りの町である。少し考え方を変えたほうがいいのではないかと思う。(委員)

- 食べていけるというか、産業振興の部分で特産品的なもの、特徴のあるもの、特に食と景観といった部分をもう少し意識していったほうがいいのではないかというご指摘。

景観の話をした場合、ケーブルカーとおっしゃったが町並み保存といったものも、町をあげて楽しくないとなかなか観光に来てくれないということもあるから、本当はそうしたものも入ってきてもおかしくない。だからその辺りは、産業振興のパートのところで宇美町に人が来てくれるような産業、観光や食べ物や景観といったところについて、いま一度検討いただけないか。

それこそ 100 年というか長期的なスパンでそういったものを考えていってはどうかという意見が出たということで、原課に投げ掛けていただけるといいかと思う。(会長)

- 篠栗の山の中腹にレストランがある。行った方もいると思うが、あそこは6月に行って、ちょうどレストランから夕日が博多港へ沈む夕暮れが、なんとも言えないいい景観となっている。あのような景観づくりは、この宇美町でもできないことはない。夜景というものは素晴らしいところがある。夜景を見る場所があるはずである。それは観光というか、ルートになる可能性もある。北九州にはロープウエーがあって、結構流行っている。少し大金をかけてみてはいかがか。(委員)

- そういった可能性を探求していただくということ自体はとても大事なことだと思う。ただ、場所はあっても市街化調整区域でなかなか難しいといった話もあるかもしれないので、そこはまさに縦割り行政で考えずに柔軟に対応していただくということも必要になろう。まずは産業担当、あるいは観光系の部署に投げ掛けをしていただいて、いま一度、全般的に今日何度も申しあげているが分析が弱いので、そこをぜひしっかりやっていただければと思う。(会長)

- それで言うと、43 ページの歴史民俗資料館の運営が「検討を深めます」、つまりもう潰れてしまうというか、そのようにしか聞こえない。大野城市などは学芸員が 10 名いる。宇美町はたった 1 人である。たった 1 人で宇美町の伝統や文化や施設を維持するというのは無理だと思う。次の 100 年を作るためには、やはり歴史的なものを残す。そしてどこにも負けない、観光でもいいが、何か置かないと弱いと思う。希望を残して、これが出来上がったらもう皆さんの仕事はおしまいというくらいでいいのではないか。とにかく人も、やる気を出している人がたくさんいるから、あと、書きぶりで事務局がいかに工夫するかで決まるのかと思う。(委員)

- 生涯学習を進めていた先生が、宇美町はポテンシャルがあるまちで、3万7,000 人の人がいるということはすごいことだと言われていた。確かに私の実家のほうの市は3万人になったので市になったが、今2万人くらいしかおらず、それもかなり過疎化して高齢化もしているので、宇美町の3万7,000 人という人口と、空港まで 15 分から 20 分で行けると交通の便は、発想を少し転換するとポテンシャルがあるのではないかと思う。若い人も移り住んでくる環境ではあるというところ、少し希望が持てる。(副会長)

- 私も今日の町民憲章モニュメントの除幕式の時に申しあげたが、惜しいという感じがある。本当にポテンシャルはあるまちだと思う。私が足りないと思っているのはわくわく感。盛り上がっているところは、若者が何がやりたいと思った時にそれを応援してくれる地域や、他の若手経営

者がいて、一緒になっていろいろなイベントを仕掛けたりする。そのようなわくわく感があちこちでできると、もっと人がやってくるのだろうという感じがしている。それがこの計画全体からあまり見えてこない感じがあるので、その点もぜひ加えていただくといいと思う。(会長)

- そろそろ、時間が来ているので、もし他にご意見がなければこれでおしまいにしたいと思うがよろしいか。(会長)

- まとめさせていただくと、今日皆さんから出てきたご意見は、全てとっていいと思うが、今回の作りは今やっていることの延長線上から出発している。皆さんのご意見は現場そして実感、そこから出発してあるべき姿を語っている。いろいろなアンケートやこの場での議論も含めて、いろいろな要素を出していただいているので、それをもっと各担当課のほうにちゃんと踏まえていただいて、具体的に宇美町がいいと言えるようなあるべき姿を描いていただいて、そこと現状とのギャップを見ていただいて、これを埋めるような、埋める時にはその原因を分析して方向性を示していくという、この作法を徹底していただきたいということ。

そして指標に関しては、実感指標と客観指標の組み合わせというのはいいけれども、それぞれがきちんと各柱の全体を示す実感指標になっているかどうか、そして、個別の指標がこれらが組み合わせるとちゃんと実感指標の達成につながっていくと思えるようなものが、網羅的に挙がっているかどうかということを考えていただくということをお願いしたい。

パブリックコメントを受けるが、もちろんそれを受けてまた再度審議の機会があるので、また皆さんのほうにもご意見を賜れればと思っている。

まずは今申しあげたような方向で原案を修正していただいて、それを 11 月末にパブリックコメントを募集するという流れにさせていただければと思う。(会長)

- ➔ 本日たくさんのご意見をいただき、会長からも一番最初に総合計画とはこうあるべきなのだという事、毎回の会議の中で言ってくださっている。12月の職員の研修の中でもまずそれを示していただいて、当然ながら全く職員もそこを考えずに作ったわけではなく、一生懸命今の自分達の仕事と、また町民から上がってきたいろいろなご意見も踏まえながら、今この形に少しずつよくなってきているような状況だとう理解いただければと思う。

スケジュール的に、もう 11 月 21 日にパブリックコメントということになれば、今日ご意見いただいたものの中に全面的な見直しというページもあったかと思うので、このスケジュールでいけるのかということ事務局としても不安に思っているところ。

そういったスケジュール感や修正部分について再度会長と協議をさせていただいて、事務局と会長にその部分を一任させていただくようなことは可能だろうかということをお聞きしたい。

(事務局)

- いかがか。(会長)

(異議なし)

- 委員からのご了解をいただいたので、そのような方向でお願いしたいと思う。

事務局の話にもあるように、私自身は最初のものとは比べて随分よくなってきていると感じている。事務局の皆さん、まちづくり課の皆さんも頑張ってくださっているし、原課の方々も随分頑張ってくださっている。ただ、どうしてもこれまでの慣性というかこれまでの流れがある

ので、どうしても抜けきれないというところで、今少しずつ変わりつつも、だけれどもなかなかうまくできていないという状況ではある。そこは温かく見守っていただきたいし、今回の総合計画で全てが皆さんに満足いただけるようなものは出来上がらないかもしれないが、小さいけれども確かな、大きな一歩を少しずつあげているという最中だと思う。その点はぜひ評価していただければと思っている。他にご意見やご質問はあるか。(会長)

- 主要な施策というものを出されると思うが、それはいつ頃に出されるのか。その審議などもあるだろうから、その辺りの計画も知りたい。(委員)

➔ それは事業計画という意味か。(事務局)

- 事業計画の中の重点プロジェクトを出すということだったが、どうなっているか。

➔ そちらについては当初予算に向けてと考えているので、また委員の皆さまにもそのスケジュールでお示ししたいと思う。この総合計画に具体的に載るかといったら、私達のイメージとしては事業計画の部分でと考えているので、具体がここに記載されるかどうかということも含めて、もう少しお時間をいただきたいと思う。(事務局)

- では、これには重点プロジェクトの事業は入らないのか。

➔ 方向性としては入れたいと思っている。ただ、具体的な事業名という形では難しいかと思っている。方向性、取組方針という形になる。(事務局)

- 方針だけ出してどのような事業をするのかということは伏せておくのか。(委員)

➔ 伏せておくというか、総合計画の中では特にその部分については書かないという形になると思う。(事務局)

- 僕は画期的だと思った。きちんと重点プロジェクトをこの総合計画の中にどんと落とし込むというのはいいと思いながら感じていたが、どうなのか。(委員)

- 私もそれは入れたほうがいいと思うし、入れるということかと思っていたが、重点プロジェクトまでは入れない。プロジェクトの具体的なものは個別の事業から構成されると思う。(会長)

➔ 事業計画ほどの詳しさでは書けない。この4年間でどういったことをしよう、確実にこのような事業をやりますというような断言した形では難しいのかと思っている。その辺りをまだ作り切れていないので、何らかの形では重点の部分を総合計画の中にも、全部を頑張らないといけなが特にここを宇美町として打ち出しますというページを作ろうという考えてはいるが、今ずっと皆さんのご意見を踏まえて修正作業というか、各課と検討する作業を進めているほうに時間を取っていて、そこを今時点で本来も進めていこうとしていたスケジュールだが、そちらに時間を取れていないという現状がある。

言い訳で申し訳ないが、どのような形でお示しすることができるのかは今固まっていない状況である。(事務局)

- では、ぜひやっていただきたいと思う。そこがないと絵に描いた餅になってしまう。だからこそ、せっかく言っていた重点プロジェクトはこの基本構想の中にしっかり明記して次の5年間に備えていく。これをやりますということが見えてくるようにやっていただきたいと思う。(委員)

- 優先順位を付けていくということは大事なことだろう。

厳密な予算との関連というのは今回は無理だが、でもせめてこれについては予算を重点的に付けていくくらいの重点プロジェクトのようなものが示されるということは意味があると思う。その関係もあってももしかしたらスケジュールの変更も視野に含めつつということになるかもしれ

ないが、大変だが、ぜひ頑張っていたいただければと思う。

他、よろしいか。

それでは以上をもちまして、本日の議事は全て終了した。本日も大変熱心に後議論にご参加いただき、ありがとうございました。それでは最後事務局にお任せしたい。(会長)

4. 閉会あいさつ

- ➔ 嶋田会長におかれましては議事進行お礼申しあげる。委員の皆さま方におかれましても、活発なご意見を賜りお礼申しあげる。これからパブリックコメントに向けて、本日いただいたご意見を踏まえたうえで引き続き取り組んでまいります。また、会長からもあったように指標の見直しについてもパブリックコメントと同時に委員の皆さまにお知らせをさせていただきたいと考えている。次回の開催は一応予定ではあるが1月の17日火曜日、13時30分からとなっている。どうぞよろしく願いしたい。それではこれをもって第7回の総合計画審議会を終了させていただく。(事務局)

以上